

シロアリ防除用 土壌処理剤



日本農薬株式会社

はじめに

私ども日本農薬は、高い殺虫活性で定評のあるフェニルピラゾール系に属する新規化合物として「ピリプロール」を開発し、新タイプのシロアリ防除剤「ネクサス」シリーズとして2016年にリリースいたしました。

このたび、施工業者様からのご意見・ご要望を基に、より広範囲への伝播性能を追求したタイプのシロアリ用土壌処理剤「ネクサスピュア」を新たなラインナップに加え、上市するに至りました。

「ネクサスピュア」は、遅効性の有効成分「ピリプロール」のみを使用しておりますので、シロアリ同士のグルーミング行動により薬剤が広く伝播され、コロニーを壊滅に至らしめる効果が期待できます。特に巣の在処が特定できないようなイエシロアリの難防除物件に於いて、是非ともお試しいただきたい製品です。

また、土壌への吸着性能やコンクリート表面への耐アルカリ性能にも優れており、長期間にわたる安定した防蟻効果で大切なお住まいをしっかりと守ります。

製品名の「ネクサス」には「連鎖」や「絆」という意味があります。有効成分「ピリプロール」の特長である優れた伝播効果で連鎖的にシロアリを退治し、大切なお住まいの保守に貢献させていただくことで、お客様との信頼の絆を深めてゆきたい！そんな願いを込め命名いたしました。

これからも日本農薬は、長年にわたる農薬開発事業で培ってきた技術を発展させ、生活環境改善に貢献する優れた製品の開発・提供を続けてまいります。

本資料は、「ネクサスピュア」の技術説明を行ったものであり、ご使用に際してユーザーの皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。

目 次

はじめに	1
I. ネクサスピュアの概要	
(1) 特長	3
(2) 組成・性状等	3
(3) 入れ目・包装形態	3
(4) 用法・用量	3
II. ネクサスピュアの防蟻性能（社内試験結果）	
(1) 防蟻効力速度比較試験	4
(2) 土壌処理後のコンクリート流し込みによる防蟻効力試験	4
(3) コンクリート表面処理後の防蟻効力試験	6
(4) 蟻道構築阻止試験	7
III. ネクサスピュアの安全性	
(1) 安全性試験結果（製剤）	8
(2) 居住者への安全性概要	8
(3) 気中濃度測定試験結果	9
IV. 耐アルカリ性能試験	10
V. ネクサスピュアの土壌移行性	10
VI. ネクサスピュアの各種部材への影響	11
VII. ネクサスピュアの使用上・取扱い上の注意	12

I. ネクサスピューアの概要

(1) 特長

- ☐ フェニルピラゾール系新規化合物ピリプロール配合による非忌避性防蟻剤
- ☐ 伝播効果に優れた遅効性薬剤
- ☐ 新築ベタ基礎物件でも安心な優れた耐アルカリ性能
- ☐ 土壌吸着性能に優れ、長期にわたり安定したバリア層を形成
- ☐ 安全性に優れた低臭・低 VOC 薬剤
- ☐ 希釈しやすく、希釈液の安定性に優れた使いやすいフロアブル薬剤
- ☐ 注ぎやすく、廃棄しやすい減容ポリ容器入り

(2) 組成・性状等

- ☐ 組成 (有効成分) : ピリプロール 2.5%
- ☐ 使用濃度 : ピリプロール 0.05%
- ☐ 希釈倍数 : 50 倍希釈 (原液 1 部 : 水 49 部)
- ☐ 比重 : 1.03 (20℃)
- ☐ 外観 : 類白色粘稠懸濁液体
- ☐ 毒劇物区分 : 非該当
- ☐ 危険物区分 : 非該当
- ☐ 魚毒性 : A 類相当

(3) 入れ目・包装形態

- ☐ 入れ目 : 2ℓ × 6 本 / ケース
- ☐ 包装形態 : 潰しやすく廃棄の容易な減容ポリ容器を使用
注ぎやすい脈動防止機能付き容器

(4) 用法・用量

- ☐ 使用希釈倍数 : 水で 50 倍に希釈 (原液 1 部 : 水 49 部を混合攪拌)
※容器を良く振ってから作業液を調製してください。
作業液調製の際は良く攪拌し、使用中のポンプ循環等で適宜攪拌してください。作業液は、必要量をその都度調製し、その日のうちに使い切ってください。
- ☐ 使用散布液量 : 土壌面状処理 3ℓ / m²
土壌帯状処理 1ℓ / m² (20cm 幅)
※施工に当たっては、製品のラベルを良く読むとともに、(公社)日本しろあり対策協会の「防除施工標準仕様書」および「しろあり防除施工における安全管理基準」を熟読し、理解したうえでご使用ください。

Ⅱ. ネクスピュアの防蟻性能(社内試験結果)

(1) 防蟻効力速度比較試験

試験場所：日本農薬(株)総合研究所

供 試 虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 10 頭

試験方法：90mmシャーレ内に真砂土(20メッシュ)を60g入れ、所定濃度に調整したネクスピュア15mlを処理し蓋をした。

調査方法：接種後の所定時間に異常個体数(転倒による歩行不可個体)、および死亡固体数を調査し算出した。

試験条件：恒温室(25℃/24D/RH60%)

結果・考察

薬剤	濃度 ppm	イエシロアリ(職蟻10頭/2連制)								死亡+異常虫率(%)		
		10分	20分	30分	40分	50分	60分	90分	120分	240分	360分	1日
ネクスピュア	500	0	0	0	0	0	0	0	0	45	100	100
ネオニコチノイド系 A 剤	1,000	0	45	70	100	100	100	100	100	100	100	100
ネオニコチノイド系 B 剤	1,000	5	30	80	100	100	100	100	100	100	100	100

薬剤処理土壌におけるネクスピュアとネオニコチノイド系 A 剤およびネオニコチノイド系 B 剤の効果発現速度を比較した。

結果、ネオニコチノイド系剤では A 剤及び B 剤は、接種 40 分後には全個体が、死亡または異常行動を起こしたのに対し、ネクスピュアは接種後 360 分経過した時点で、ようやく全個体が異常行動を起こす事が確認された。

ネクスピュアはネオニコチノイド系剤に比べ、薬剤と接触してから完全にシロアリが動けなくなるまでの時間がおよそ 9 倍も長いことから、この分シロアリ同士のグルーミング効率が高まり、より広範囲に伝播効果が発現されます。

(2) 土壌処理後のコンクリート流し込みによる防蟻効力試験

試験場所：日本農薬(株)総合研究所

供 試 虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 10 頭

試験方法：ポリスチレンビーカー(径17cm、深さ15cm)の容器底部に穴を空け、濾紙をひいた後に真砂土を10cm入れ、50倍希釈のネクス SC を3ℓ/㎡相当処理した。
1日後、上部よりコンクリートを5cm流し込み硬化させ、40℃・1ヶ月間恒温保管した後、コンクリートを取り除き土壌を上層(4cm)と下層(4~10cm)に区分し、シャーレ内に移し替え供試虫を放虫した。

試験条件：恒温室(25℃/RH60%)

試験規模：1区1ビーカー2連制

結果・考察

薬剤	試験区	連制	イエシロアリ（職蟻 10 頭）					
			上段 / 死亡率			下段 / 死亡 + 異常虫率（％）		
			1 時間	2 時間	3 時間	6 時間	24 時間	48 時間
ネクサス SC (50 倍希釈液)	上層 (0 ～ 4cm)	1	0	0	0	75	85	90
			0	0	50	100	100	100
		2	0	0	0	55	85	100
			0	0	5	100	100	100
	下層 (4 ～ 10cm)	1	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0
		2	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0

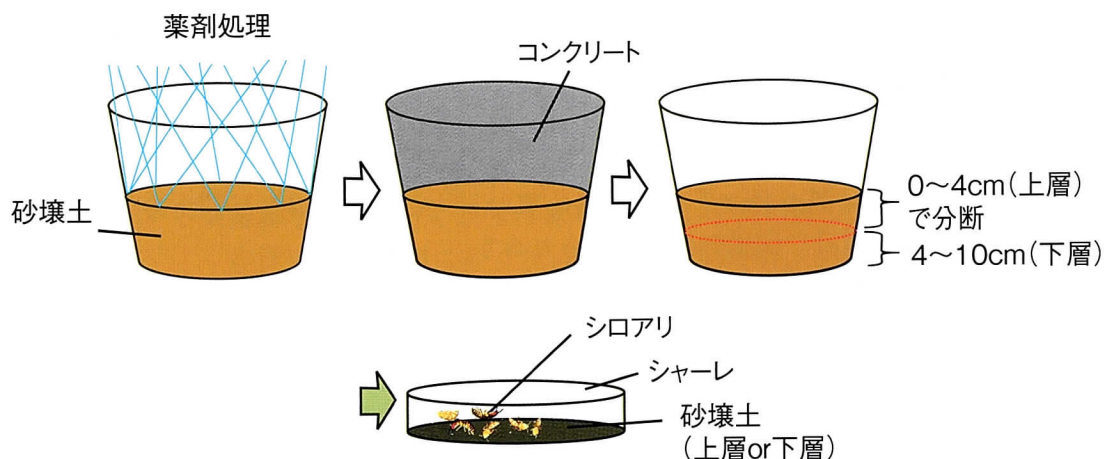
上層区はコンクリート流し込みの影響により、直接強アルカリと接触する過酷な条件であるが十分な効果が残っており、供試虫は 48 時間以内にほぼ全頭死亡する結果となった。

一方、下層区では供試虫の死亡は認められず、薬剤は上層のみに留まり、下層には到達していないことが示唆された。

従って、土壌処理後に直接コンクリートを流し込み、且つ 40℃・1 ヶ月間の恒温保管後の過酷な条件下においても有効成分ピリプロールは十分な残効性を有することが確認された。

※上記試験は、ネクサス SC（ピリプロール 0.05% + アセタミプリド 0.01%）を用いて実施した結果を引用。アセタミプリドは耐候操作及び強アルカリの影響により、早期に分解されることが確認されているため、ネクサスピュア（ピリプロール 0.05% 単剤）でも同様の結果が得られるものと考えられます。

試験手順概要



(3) コンクリート表面処理後の防蟻効力試験

試験目的：新築ベタ基礎物件における強アルカリ条件（コンクリート表面処理）を想定した防蟻効力を確認する

試験場所：日本農薬(株)総合研究所

供試虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 100 頭、兵蟻 10 頭

試験方法：ポリスチレンビーカー（径 17cm、深さ 15cm）にモルタルを 5cm 厚で流し込み、1 日経過後、50 倍希釈したネクサス SC を 3ℓ / m² 相当処理した。40℃・1 ヶ月間恒温保管した後、コンクリート上面にイエシロアリを放虫し、湿った脱脂綿片（水 3ml 滴下、水分補給用）を設置した。

試験条件：恒温室（25℃ / RH 60%）

試験規模：1 区 1 ビーカー 2 連制

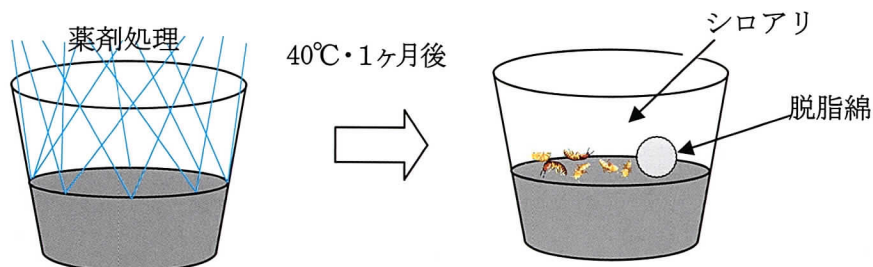
結果・考察

薬剤 希釈倍数	連制	イエシロアリ（職蟻 100 頭、兵蟻 10 頭）				
		上段 / 死亡率		下段 / 死亡 + 異常虫率 (%)		
		1 時間	2 時間	3 時間	6 時間	24 時間
ネクサス SC (50 倍希釈)	1	0	0	0	30	100
		0	0	20	100	100
	2	0	0	0	74	100
		0	0	0	100	100
無処理区	1	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0

コンクリート表面上の強アルカリ条件下でも有効成分ピリプロールの優れた耐アルカリ性と残効性により安定した防蟻効力を有し、シロアリ全頭が死亡したと考えられる。

※上記試験は、ネクサス SC（ピリプロール 0.05% + アセタミプリド 0.01%）を用いて実施した結果を引用。アセタミプリドは耐候操作及び強アルカリの影響により、早期に分解されることが確認されているため、ネクサスピュア（ピリプロール 0.05% 単剤）でも同様の結果が得られるものと考えられます。

試験手順概要



(4) 蟻道構築阻止試験

試験目的：非忌避・遅効性薬剤は、効果が発現するまでに時間を要するため、その間、蟻道を構築し家屋への侵入および木部への食害進行が懸念される。そこで、ネクススピューアを処理したコンクリート片を用いて蟻道構築阻止効果を確認する。

試験場所：日本農薬(株)総合研究所

供試虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 400 頭、兵蟻 50 頭

試験方法：コンクリート (70 × 20 × 70mm) を所定濃度の薬液に浸漬し、24 時間風乾した。プラスチック容器に真砂土 1.5kg と水 250ml を入れ、そこにコンクリート片を設置した。コンクリート上面には餌としてマツ辺材 (30 × 30 × 10mm) を設置し、供試虫を放虫し蓋をした。

調査方法：所定日に生存虫数、蟻道構築程度を調査した。蟻道構築阻止効果はグレード評価 (コンクリート側面に構築された蟻道の最大高度 A : 0mm、B : 1 ~ 5mm、C : 6 ~ 15mm、D : 16 ~ 35mm、E : 36mm ~) した。死亡 + 異常虫率はグレード評価 (A : 100%、B : 99 ~ 90%、C : 89 ~ 70%、D : 69 ~ 50%、E : 49% ~) した。

試験条件：恒温室 (25℃ / RH60%)

試験規模：1 区 1 容器 3 連制

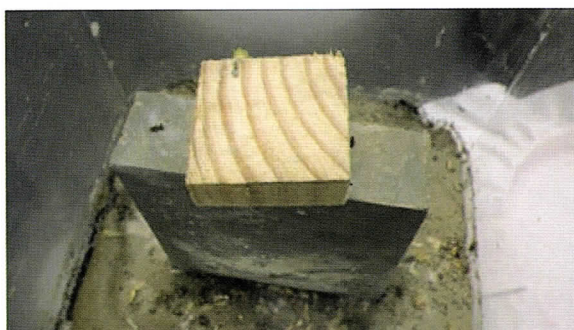
結果・考察

薬剤	濃度 ppm	連制	イエシロアリ (職蟻 400 頭、兵蟻 50 頭)							
			死亡 + 異常虫率				蟻道構築阻止効果			
			3 日	9 日	14 日	28 日	3 日	9 日	14 日	28 日
ネクススピューア	500	1	A	A	A	A	A	A	A	A
		2	A	A	A	A	A	A	A	A
		3	A	A	A	A	A	A	A	A
無処理	—	1	E	E	E	E	E	E	E	E
		2	E	E	E	E	E	E	E	E
		3	E	E	E	E	E	E	E	E

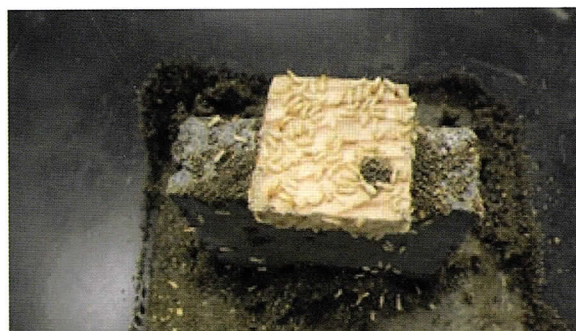
ネクススピューアを処理したコンクリート片では蟻道の構築およびマツ辺材への食害は認められず、処理 1 日後には全個体が異常行動を起こし、処理 3 日後には全個体で死亡が確認された。一方、無処理区コンクリート片では 7 日後マツ辺材を置いた頂上まで蟻道が構築され、マツ辺材が食害される結果となった。

以上の結果より、ネクススピューア処理区では、イエシロアリの活動はしばらく続くものの、コンクリート片への蟻道構築およびマツ辺材を加害するまでの活性は残されておらず、高い蟻道構築阻止効果が確認された。

試験状況写真



ネクススピューア処理区 (処理 9 日後)



無処理区 (9 日後)

Ⅲ. ネクサスピュアの安全性

(1) 安全性試験結果 (製剤)

- ☐ 急性経口毒性 (ラット) : $LD_{50} > 2,000\text{mg/kg}$
- ☐ 急性経皮毒性 (ラット) : $LD_{50} > 2,000\text{mg/kg}$
- ☐ 皮膚一次刺激性 (ウサギ) : 刺激性なし (原液)
- ☐ 眼一次刺激性 (ウサギ) : 刺激性なし (原液)
- ☐ 皮膚感作性 (モルモット) : なし (陰性)
- ☐ 水生生物への毒性 : A 類相当
- コイ急性毒性 : LC_{50} 値 (96hr) 818mg/L
- オオミジンコ急性遊泳阻害 : EC_{50} 値 (48hr) 16mg/L
- ☐ 変異原性 : なし (陰性)
- ☐ 発がん性 : なし (陰性)

(2) 居住者への安全性概要

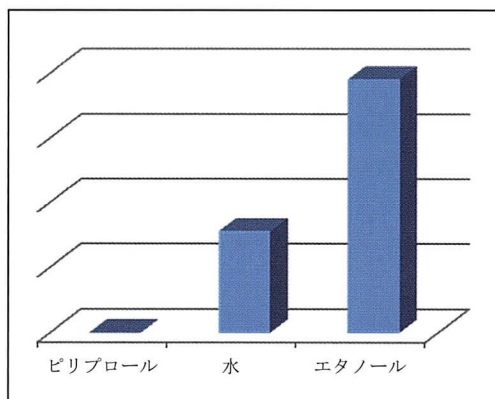
ネクサスピュアの有効成分ピリプロールは蒸気圧 (揮発性) が極めて低く、散布作業中でも居室の空气中に有効成分が揮散しないため、居住者やペットにも安全・安心です。

また、ネクサスピュアは厚生労働省において室内濃度指針値が設定されている下記 VOC13 物質を使用しておりません。

室内濃度指針値 (厚生労働省設定) VOC13 物質 (シックハウスの原因と考えられる物質)

- | | | | |
|-------------|--------------|------------------|----------|
| ・ホルムアルデヒド | ・エチルベンゼン | ・テトラデカン | ・フェノブカルブ |
| ・トルエン | ・スチレン | ・フタル酸ジ-2-エチルヘキシル | |
| ・キシレン | ・クロルピリホス | ・ダイアジノン | |
| ・パラジクロロベンゼン | ・フタル酸ジ-n-ブチル | ・アセトアルデヒド | |

ネクサスピュア有効成分の蒸気圧



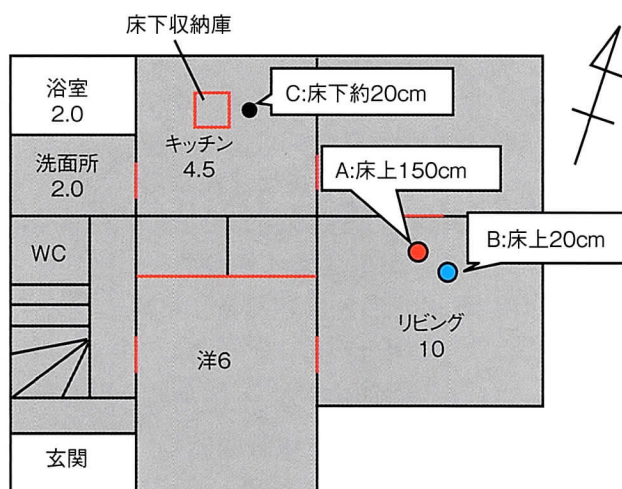
ネクサスピュアの有効成分ピリプロールは極めて揮散しにくい化合物です。例えば、ピリプロールを水の蒸気圧と比較すると約 4 億分の 1、エタノールと比較すると約 9.8 億分の 1 に留まり殆ど揮散しません。この値は、居住者や作業者に対して安全性が高いことを示唆します。

各 25°C における蒸気圧

- ・ピリプロール : $< 8.08 \times 10^{-8}\text{hpa}$
- ・水 : 31.7hpa ・エタノール : 78.6hpa

(3) 気中濃度測定試験結果

下記物件の着色部分にネクススピュア実用希釈液（水で 50 倍希釈）を散布した。
 床上についてはリビングの床上 150cm 地点（A）、床上 20cm 地点（B）を測定点とした。
 床下については、床下収納庫（キッチン）近くの床から下 20cm 地点（C）を測定点とした。



試験場所：東京都内一般木造住宅

散布濃度：50 倍希釈濃度

散布条件：床下土壌に 3L / m²相当量を散布処理

採取方法：床下および床上（リビング）の空気を 2L / 分で 100 分間吸引し、吸収管に有効成分を吸着

分析方法：ピリプロール／高速液体クロマトグラフィー

結果

成分名	吸引時間	定量限界値 ($\mu\text{g} / \text{m}^3$) ※	床上 150cm (A)	床上 20cm (B)	床下 20cm (C)
ピリプロール	散布開始より 2 時間	0.2	検出せず	検出せず	検出せず

※定量限界値：ピリプロール⇒ 1 立方メートル中 1000 万分の 2 グラム相当量

防蟻有効成分ピリプロールは、極めて蒸気圧 (8.08×10^{-8} hPa : 25°C) が低いため、各測定地点における気中濃度は全て検出限界以下であり、作業・居住者への安全性が高い。

Ⅳ. 耐アルカリ性能試験

試験場所：日本農薬(株)総合研究所

試験方法：サンプル瓶に供試薬剤の実用濃度希釈液 6.3 g を入れ、飽和水酸化カルシウム水溶液又は水を 2g 加える。(アルカリ処理区：> pH12)

混合後、蓋をして 21 日間 50℃ で保管した後、薬剤中の有効成分残存率を比較測定。

結果・考察



水添加区における各有効成分残存率の大きな差は認められなかったが、アルカリ添加区において、ピリプロールは他の防蟻有効成分と比べ優れた耐アルカリ性能を有する事が確認された。

※新築ベタ基礎完成後の施工において、基礎内に雨水などが溜まっている場合は、予め水分を排出しコンクリート表面が乾いてから処理を行ってください。

Ⅴ. ネクサスピューアの土壌移行性

試験方法

- ① 真砂土を恒温機 120℃ で十分に水分を飛ばす。
- ② セルロースチューブ（内径 15mm×高さ 350mm）の一端に脱脂綿を詰め、反対側から真砂土を深さ 30cm になるように充填する。
- ③ 50 倍希釈液（実使用濃度）を 3ℓ / m² 相当で処理。
- ④ 希釈液処理 1 日後、上部から蒸留水を約 1 ml / 時間で 80 時間（計 80ml）を滴下する。滴下スピードをあらかじめ調整の上、カラム下部には流出水を受ける三角フラスコを設置。
- ⑤ 滴下終了後、表層から 5cm 毎に土壌を取り分け、各層の有効成分分布を測定。

結果・考察

土壌カラム	有効成分の分布 (%)
	ピリプロール
0 - 5 cm	93.4
5 - 10cm	6.6
10 - 15cm	N . D
15 - 20cm	N . D
20 - 25cm	N . D
25 - 30cm	N . D
流出水	N . D

ネクサスピューアの有効成分ピリプロールは5 - 10cm層で僅かに検出されたが、過酷な試験条件下でもほとんどが最上層(0 - 5cm)で留まる事が確認された。

従って、ピリプロールは土壌吸着性が高く、雨水等の水分による移行は殆どなく安定している事が示唆される結果となった。

Ⅵ. ネクサスピューアの各種部材への影響

試験方法：浸漬法

ネクサスピューア 50 倍希釈液に 25℃で 1 週間浸漬させ、目視にて影響の有無を確認。尚、比較のため水についても同様の試験を実施。

部材	希釈液	水
塩ビ管	変化なし	変化なし
白ガス管	僅かに変色あり	僅かに変色あり
軟質塩ビ電気コード	変化なし	変化なし
断熱材 (EPS)	変化なし	変化なし
断熱材 (XPS)	変化なし	変化なし
鉄釘	錆発生 (水と同様)	錆発生
散水ホース (耐薬耐油)	変化なし	変化なし
散水ホース (耐寒)	変化なし	変化なし
給水給湯配管 (さや管) 発泡ポリエチレン管	変化なし	変化なし
給水給湯配管 (内管) 架橋ポリエチレン管	変化なし	変化なし

鉄釘で錆発生が見られたが、水と同等であることから薬剤の原因ではなく水の影響によると考えられる。その他の供試部材ではほとんど変化なく実用上問題ないと考えられる。

VII. ネクサスピュアの使用上・取扱い上の注意

1. 使用方法

- 1) 原液を水で 50 倍に希釈（適切な容量のタンクに施工必要量の 49 部の水を入れ、本剤〔ネクサスピュア〕1 部を加えた後良く攪拌混合する）し、動力噴霧機または手動噴霧器にて土壌表面に希釈液を散布する。

（標準使用量）

面状散布は $3\ell / \text{m}^2$ とする。

建物基礎内側、束石の周り、配管などの立ち上がり部分の土壌に帯状散布する場合、壁際から 20cm 幅に 1m 当たり 1ℓ の割合で散布する。

- 2) 本剤はフロアブル製剤であり、本剤希釈液を静置すると成分が徐々に沈降する。使用に当たっては次の注意事項を守る。

動力噴霧機を使用する場合、循環により希釈液を攪拌しながら散布する。

手動噴霧器を使用する場合、適宜容器を揺する等して希釈液を攪拌しながら散布する。

2. 使用上の注意

- 1) 定められた用法・用量を守り、所定の用途以外の目的には使用しないこと。
- 2) 使用の際は、適切な保護具（防護マスク、保護メガネ、ゴム手袋、長袖・長ズボンの作業着、作業帽、作業靴等）を着用し、飛散する薬剤を吸収したり、直接皮膚に付着しないよう注意すること。
- 3) 本剤が皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合は直ちに石けんと水で良く洗い落とすこと。万一皮膚に異常を感じた場合は、直ちに医師の診療を受けること。
- 4) 本剤原液は眼に対し刺激性があるので、保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は、直ちに清浄な流水で 15 分以上洗眼（眼球、まぶたの隅々まで水が良く行きわたるように洗う）した後、眼科医の診療を受けること。
- 5) ジンマシン、カブレ、気管支喘息、アレルギーなどを起こしやすい体質の人、過去に塗料・洗剤・薬剤等によるアレルギー症状（発疹、かゆみ等）を経験された人は取り扱い及び作業をしないこと。
- 6) 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取り扱い及び作業をしないこと。
- 7) 床下等、風通しの悪い空間で作業する場合、換気を行うとともに長時間の連続作業を避けること。
- 8) 作業中、皮膚への刺激を感じたり、体調の異常を感じた場合は、直ちに作業を中止して医師の診療を受けること。
- 9) 誤飲に注意すること。誤飲した場合は水で良く口の中を洗い、カップ 1～2 杯の水を与え、直ちに医師の診療を受けること。なお、意識のない時には口から何も与えてはならない。
- 10) 養殖池・河川・湖沼・井戸等に飛散・流入し、汚染する恐れがある場所では使用しない。
- 11) 使用残りのないように調製し使い切ること。
- 12) 既存建物の作業に際しては、居住者が薬剤に暴露されないよう注意すること。食品、食器、飼料（ペットの餌等）、家具、家電製品、玩具、寝具、衣類、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器等は予め他へ移すか、格納する等、薬剤がかからないようにすること。
- 13) 建物内部の部材表面、外装材、塗装面、石材、モルタル壁、白木、自動車等に薬剤が付着しないよう、覆い等の措置をしてから作業すること。
- 14) 作業中は、飲食・喫煙をしないこと。
- 15) 作業中に誤って薬剤をこぼしたり、散布装置の噴射方向を間違えないよう注意すること。

3. 使用後の注意

- 1) 作業後は身体の露出部分を速やかに石けんと水で良く洗い、うがい・洗顔をして衣服を着替えること。作業時の衣服等は他のものと分けて洗濯すること。
- 2) 使用後の作業液の残りや本剤を使用した機械器具類の洗浄廃液は次回散布時の薬液調製に使用し、河川・湖沼・下水道等公共水域や、地下水を汚染する恐れのある場所に捨てないこと。
- 3) 使用後の空容器は放置せず、水で洗い（洗浄液は次回散布時の薬液調製に使用する）、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託する等、適切に処理し、他の目的に使用しないこと。

4. 保管上の注意

- 1) 盗難、紛失、流用などの事故防止に努めるとともに、薬剤は最後まで本容器のまま保管し、移し替え、小分けでの保管はしないこと。
- 2) 食品、食器類、飼料、ペットの餌等と厳重に区分し、密栓して、小児の手の届かない鍵のかかる保管庫に保存すること。
- 3) 火気を避け、雨水や直射日光の当たらない乾燥、冷涼な場所に保管すること。
- 4) 万一本剤が漏洩した場合、吸収性の媒体、例えば砂・ボロ布・オガクズ等に吸収させ、汚染の広がりを阻止して回収する。回収した薬剤は都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託する等、適切に処理すること。

5. 居住者および近隣に対する注意

1) 施工前に事前の調査確認を十分行うこと。

- ① 居住者の健康状態を可能な限り把握し、健康被害の発生を未然に防止すること。
- ② 施工前に居住者に対し薬剤に関する事前説明を十分に行うとともに、アレルギーや化学物質過敏症などの人がいないか確認し、健康被害の発生を未然に防止すること。
- ③ 乳幼児、妊婦、病人、体調の悪い人、ペット等は薬剤の影響のない場所に移動させること。
- ④ 隣家や周囲の住人に対し施工実施を周知するとともに、①～③の事項を居住者同様実施し、健康被害やトラブルの発生を未然に防ぐこと。

2) 施工中の注意

- ① 作業中は小児や散布に関係のないものやペットが作業現場に近づかないよう十分注意すること。
- ② 防護シートを掛ける等の養生を行い、薬剤が周囲に飛散しないよう十分注意すること。

3) 施工後の注意

- ① 居住者に対し、施工後の換気を良く行うよう適切なアドバイスを行うこと。特に、臭いの感じ方には個人差が大きいので、当日だけでなく翌日以降も換気を心がけるようアドバイスすること。なお、換気に際しては隣家の周囲の住人に対する配慮を心がけるようアドバイスすること。
- ② 万一体調の異常など健康被害が生じた場合は、早めに医師の診療を受けるようアドバイスすること。
- ③ 居住者が不必要に床下に入らないようアドバイスするとともに、犬・猫等のペットが床下に入らないよう、施工後しばらくの間安全な場所に繋いでおくか、開口部に侵入防止の措置を行ってもらうようにすること。



日本農薬株式会社

化学品本部 化学品部

〒104-8386 東京都中央区京橋1-19-8

TEL 03-6361-1417 FAX 03-6361-1454

ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>